



”G”の由来はGood「良い」、Glory「繁栄」の頭文字「G」を取ったものです。



認定マーク『Gマーク』

長期安全認定事業所用『ゴールドGマーク』

Gマーク認定事業所様からのメッセージ

令和7年度のGマーク申請は新規申請17営業所、更新申請67営業所となり、7月14日に受付を終了しました。

全国的には昨年12月時点で全国トラック運送事業所の33.9%、約3割がGマーク制度に認定されていますが、県内でも未取得事業所は多く、交通事故を防止するためにも積極的にGマーク認定事業所にチャレンジして頂きたいと思っています。

そこで、Gマーク取得への積極的な取組を推進するため、昨年Gマーク新規申請をされて認定を受けられました

神島運輸有限会社 代表取締役 渡部 貴史 様

から今後、Gマーク取得を目指される事業者様に対して、取得に向けて経験なされた上での貴重なご意見を伺いに事業所を訪問させて頂きました。

大変御多忙中、お時間を頂きありがとうございました。また奥様も同席なされ大変感謝しております。

法令を遵守し、交通事故を防止するため高い取組が評価されるGマーク制度に少しでも関心を持って頂きたい、そのためには実際に昨年取得されました事業者様のリアルな生の声を届けよう、そういう思いからインタビューを依頼させて頂きました。

御了承を頂きありがとうございました。まず、御社の事業概要について簡単にご説明願います。



はい、弊社は日本カーボン株式会社富山工場の協力会社として輸送部門、請負業務部門を2本柱としています。

トラックの台数は5台、少ないながらも高稼働率によって安定した利益を出しています。

ありがとうございます。適正化事業部としては交通事故防止に向けて「Gマーク取得」を推進するための広報や指導を行ってききましたが、御社もGマーク制度については御存知だったと思います。

では、Gマークに取組まれたきっかけ、決め手になったのは何だったのでしょうか？お聞かせ願います。

代表取締役 渡部 貴史 様

2年前に社長が交代した際、自分たちで何か新しい取組が出来ないかを考えていました。

実は、Gマーク申請した前の年の「地方実施機関の巡回指導」で満点を頂いたのですが、自社で安全運転に向けた会議の議題として実施していた「危険予知トレーニング」などがGマークの加点項目に含まれていたことで普段やっている事の延長ならば出来るはず、ならばGマークの認定をして貰えば良い、認定されれば取引先も見方が違ってくるのでは等と考えて取締役と相談した結果、申請に取組む事を決めました。

日頃から安全運転、交通事故防止への取組みをされていてその延長線上で取組めると前向きにお考えになられた訳ですね。そして取組みが開始されました。いざ、開始されて苦労された点はどういった部分ですか？

ドライバーは、最初、関心も薄く、業務中心の中で運行の合間に行う会議を調整して開催するのに苦労しました。運行管理者自身も最初はハードルが高いかなという思いは正直あったようです。

でも、ちょうど昨年の4月からの改善基準告示の改正があったじゃないですか。

拘束時間を守り、休憩時間、休息期間を守ることと並行して法令を遵守する、安全運転にも取り組むことをドライバーに周知しました。

それと事務所全員が協力して申請に向けた空気を作り出したこともドライバーに影響したと思います。

取組みのタイミングも良かったのですね。事務所の皆様のサポートも効果ありですね。

認定結果として取組項目の内、「安全性に対する取組の積極性」の点数がほぼ満点状態で素晴らしいと思います。

取組みをスタートしてから実際に交通事故防止セミナー等を受講されてドライバー様や管理者様は事故防止への考え方や姿勢に変化はありましたか？

先程お話した通り、巡回指導での高い評価がやる気に繋がり、取得してみてもやってきたことに間違いは無く、それも自信に繋がったと思います。

ドライバーが参加すると付与点数の高いセミナーはドライバーに参加させました。そういった機会が無かったドライバーは良い刺激を受けて大変勉強になったようでした。

運転業務を調整して運行の合間にセミナーに参加させましたが、今後も参加させようと思っています。

適性診断などはドライバー自身が直接運転能力を知り得る良い機会だったと思いますね。

Gマーク取得後、ドライバー様、従業員様、事務所内の雰囲気、荷主様の反応等、変化はありましたか？

元々無事故を目指して取り組んできましたが、Gマーク取得後は新たに「認定継続」を目標に設定し、より一層安全運転に対する意識を強く持つようになったと思います。

これは事務所内もドライバーも同様ですね。

荷主に対しても「Gマークを取りました」とお伝えしました。

特段、大きな変化や評価はありませんでしたね(笑)

ただ、交通事故防止に向けて、しっかりと管理している会社であることは届いたと思っています。



神島運輸有限会社

おっしゃられる通りです。必ず荷主様に響いております。

さてGマークのステッカーを車両に貼っていると思います。ドライバー様の感想はありますか？

目に見える大きな変化はありませんが、安全運転には強い関心を持っています。新たな目標「認定継続」もあるのでドライバーには交通事故防止について継続指導したいと思っています。

Gマークを取得されますとインセンティブが付与されていますが、何か申請して活用なさっていますか？

今すぐではありませんが、今後、外国人の特定技能制度の活用を考えています。

そのためには、Gマークの取組は継続したいと思っています。

また、インセンティブに繋がるかどうか分かりませんが、Gマークステッカーや名刺シール(Gマーク)を効果的に活用して取引先にアピールしています。今後、幅広く運賃交渉などの場において交通事故を起こさない安全性の高い事業者であることをアピールしたいと思っています。

御社のホームページにも大々的に「Gマーク取得事業所」を掲載されてアピールされれば良いと思います。

それを見て働きやすい職場と考え、雇用を希望するドライバーが連絡してくるかもしれません。

さて、最後の質問になります。貨物運送事業者としては交通事故防止に最大限取組み、安全と安心によって国民生活を支える

エッセンシャルワーカーとしての使命があります。

しかし、現実、県内では交通死亡事故が多発したり、信号機のない横断歩道での車両の停止率が全国ワースト1になるなどの実態があります。

今こそプロドライバーが交通事故防止の先頭に立って模範運転をすべきであり、そのためには御社のように高い安全性が評価されるGマーク取得事業所をもっと増やす必要があります。

今後、Gマーク取得を目指そうと思っている事業者の皆様に対して、昨年Gマーク認定を受けられました事業者として助言、メッセージをお願い致します。

はい。本音を言いますともっと早く取り組みれば良かったと思っています。

運賃交渉の場でもGマーク取得をアピールして交通事故防止にしっかりと取り組んでいる事業者であることを条件としてもっと早くに提示出来たかも知れません。

また、Gマーク取得には安全運転に関する多種多様な取組が当然必要となりますが、どれも普段の交通事故を防止するための安全性を高める活動の延長線上にあるものです。

一つ一つの項目を丁寧に計画的に取り組むことで必ず認定する合格点に届きますので、「安全意識を高めること」を目標にされて是非、チャレンジしてみてください。

本日は大変御多忙中、貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

来年度のGマーク新規申請事業者数が増えますようにお聞かせ頂きました内容は、様々な機会を通じて紹介させて頂きたいと思っております。

貴社の益々のご発展と従業員の皆様のご健勝を心より祈念しております。

編集後記

今回初めての試みとして、Gマーク取得事業者様に対するインタビューをさせて頂きました。

御多忙中、対応をなさせて頂きましたが、業務への前向きな姿勢、リーダーシップの発揮、所内におけるコミュニケーションの良さも感じました。

事業者様が最前線で安全を確保するために御苦労なさっている話をお聞きし、一つ一つの積み重ねが交通事故防止に繋がっているということが改めて分かりました。

どうせ会議をするなら、安全指導をするのならとした現状に満足しない向上心、まさに上昇志向を原動力としてGマーク取得に挑戦されました。

正直、「Gマーク取得はハードルが高い」とした話はよく耳にしますが、今回、おっしゃられているように「普段の交通事故防止に向けた安全性を高める活動の延長線上にある」と考えれば決して手が届かない遠くにあるものではありません。

富山県トラック協会はGマーク新規取得に向けて会員事業者様をサポート致します。

交通事故を防止し、安全性が高い事業者として評価されませんか？

